視察研修報・研修会等告書

令和元年 整理番号 R5年 下半期 No 1
議席番号 (5番) 議員名(神谷 靖)

1 期 日
令和 6 年1月 23 日(火)～ 1 月 25 日(木) (2 泊 3 日)

2 場 所
岡山県 奈義町 ～ 広島県 尾道市 ～ 岡山県 井原市

3 視察・研修ルートおよび移動方法
1 月 23 日(火):
矢板 (JR) → 岡山 (レンタカー) → 奈義町役場 (レンタカー) → 岡山市 泊
1 月 24 日(水):
岡山市 (レンタカー) → NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト (レンタカー) → 福山市 泊
1 月 25 日(木):
福山市 (レンタカー) → 井原市役所 (レンタカー) → 岡山 (JR) → 矢板

4 視察、研修事項
(1) 岡山県 奈義町 「子育て支援」政策 について
(2) 広島県 尾道市 「尾道市空家再生プロジェクト」 について
(3) 岡山県 井原市 世界が認めた「美しい星空」の下でのまちづくり推進事業 について

(矢板市 人口 30,577 人 (2024 年 1 月) 面積 170.4km^2 人口密度 180 人/ km^2)

5 視察、研修の内容と成果
(1) 岡山県 奈義町 「子育て支援」政策 について

〔 奈義町概要 〕 配布資料より
奈義町は、岡山県北東部に位置し、北部は鳥取県に接している。昭和 30 年に 3 村合併で誕生し、平成 14 年に住民投票で単独町政を決定した。自衛隊誘致をはじめ、工業団地や公共下水道整備、全戸へ光ファイバーケーブルなど質の高いインフラ整備しつつ、子育て支援や在宅医療など独自の福祉施策を進めて、小さな町ながら大きく飛躍している。自衛隊の敷地は行政区の約 2 割を占め、また町の中心部から半径2Km に人口の 8 割が定住するコンパクトシティを形成している。豊かな自然環境、奈義現代美術館や横仙歌舞伎など、「自然とアート」をテーマにした、文化度の高いまちづくりにも力を入れている。

人口 5,751 人 (2023 年 3 月) 面積 69.52km^2 人口密度 83 人/ km^2

〔 研修内容 〕
奈義町は中山間地域にあり、少子化による人口減少が深刻な問題であった。この課題を住民と一緒に考えて、少子化対策は最大の高齢者福祉であるとの結論に至り、平成 24 年(2012 年)に『奈義町子育て応援宣言』を発表し、「家庭・地域・学校・行政みんなが手を携えて地域全体で子育てを支えるまち」を

目指すことになった。

アンケート等から、少子化対策として次の３つに取り組むこととした

① 妊娠・出産、子育てまで切れ目のない経済的支援

② 出産、子育て等に係るメンタル的支援、子育てにやさしい地域づくり　など機運醸成

③ 地域の課題の解決　（住む、働く）

【具体的な子育て支援策】

①	保育料が国基準の約半額、さらに第２子はその半額、第３子以降は無料
	小中学校給食費を半額補助
	小中学校の教育教材費を無料化
	高校生までの医療費無料
	特定不妊治療費、県の助成を引いた額の 1/2 以内で年額 20 万円助成
	在宅育児をする保護者に毎月 15000 円の支援金
	高校生への修学支援として年額 24 万円の支援金
	中学３年生までのひとり親に年額５万4千円を支給、第2子以降は１人２万７千円加算
	おたふくかぜ、インフルエンザなど予防接種費助成
②	保健師による母子手帳交付時の面談
	きずなメールによる情報配信
	保健師による新生児全戸訪問
	母乳相談
	産後ヘルパー（生活支援サポーターが訪問支援　30 分 250 円）
	毎週木曜子育て相談
	なぎチャイルドホーム（町民同士で支えあう子育てサポート制度）
③	「しごとコンビニ」事業　一般社団法人しごとえん　が町の中の色々な仕事を登録書に紹介
	こども見守り「こもりん」　大人が交代制で子どもたちを見る
	賃貸住宅、分譲地整備
	多世代共生型 ナギフトカード（町民カード、スマホ連携可能）

これらの施策により、令和元年に合計特殊出生率「2.95」を記録。

奈義町の子育て世帯は半数以上が子ども３人以上の多子世帯を実現している。

総括として、高い合計特殊出生率の鍵は「安心感」であると強調され、

・住むところがあって安心

・働くことができて安心

・子育ての負担が軽くなって安心

・子育ての悩みや喜びが共有できて安心

・町のみんなが子育てを応援してくれて安心

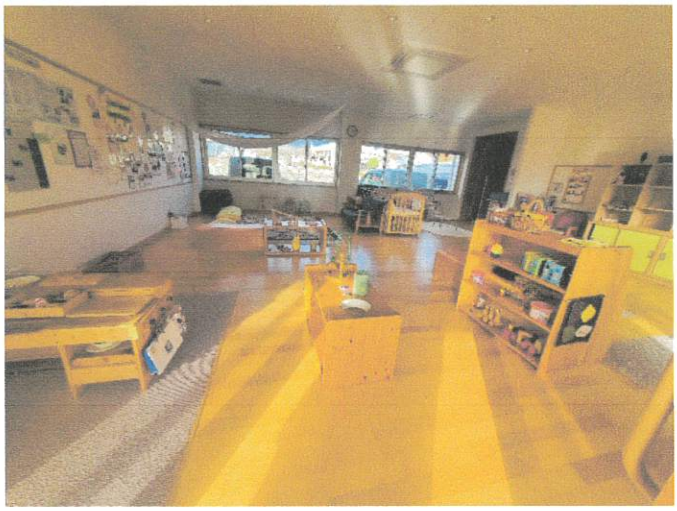
行政の施策に対して町民が共感し、信頼関係を築くことが大切である。

〔 所感 〕

昨年（2023 年）２月に、岸田首相がくるま座対話で訪れた町ということで、一躍子育て先進の町として有名になったため、今回の視察研修は矢板市の他に、島根県浜田市、高知県黒潮町、熊本県宇城市、福島県二本松市（オンライン）が参加する合同研修でした。少子化・人口減少問題をどの自治体も最大の

課題にしていることを感じ取ることができました。

歳出削減と施策の見直しを行い、20 年間かけて子育て支援施策を拡充させてきたことにより、子育て応援宣言通りのまちづくりができているということについては、参考にすべき点が多くあり、そしてポイントは「安心感」を如何に創り出すかということに知恵を絞らないといけないと感じました。研修の最後に見学した「なぎチャイルドホーム」は、平屋でしたが、光が差して明るく暖かみのある建物で、子育ての拠点にふさわしい「安心感」を感じる施設でした。



【なぎチャイルドホームの写真】
左上：室内広場
右上：廊下のリサイクルコーナー
下：「日本子育て支援大賞 2022」表彰

（2） 広島県　尾道市 「尾道市空き家再生プロジェクト」 について

〔 尾道市概要 〕 HP より

瀬戸内のほぼ中央、広島県の東南部に位置し、大半が山地で、平地は尾道水道・御調川沿い・島しょ部の海岸沿いに形成されている。海を望む階段や坂道、路地越しに見える尾道水道、点在する寺院など、歴史を凝縮した景観に魅かれ、多くの文人墨客が足跡を刻んでいる。近年では数々の映像作品の舞台となり映画のまちとしても有名である。国立公園である瀬戸内海は、海・島と山地、丘陵が織りなす多様で豊かな自然が特徴であり、全長約 70km の海の道をサイクリングで満喫できるしまなみ海道など、他にはない魅力的な価値を持つまちづくりを推進している。

人口 127,897 人（2024 年 2 月）　面積 285.11km^2　人口密度 449 人/ km^2

〔 研修内容 〕

尾道市で空き家再生や地域活性化活動を行うNPO法人「尾道空き家再生プロジェクト」の専務理事・新田さんからプロジェクトの活動内容などの講義と再生古民家の現場視察を行った。

■ 尾道空き家再生プロジェクトの主な活動内容

1. 空き家バンク（対象エリアに500軒近い空き家がある）
- 尾道市内全域を対象にせず山手地域や島しょ部で行っていて、空き家所有者と利用希望者を繋ぐサービスを提供している。
- 2009 年開始、これまでに約 150～160 組の移住・定住をサポートしている。
- 毎月 10 人程度の相談を受け、うち 1 人が移住・定住につながる程度となっている。
- オンラインでの情報公開は行わず、実際に尾道に足を運んでもらうことで、移住・定住への意欲を判断している。面談した方には情報公開している。
- 移住者向けのサポートとして、物件探し、住居の改修、地域情報の提供などを行っている。

2. 古民家再生（日本遺産となっている山手地域にある大正～昭和初期の建物が対象）
- 築 100 年以上の古民家を宿泊施設やイベントスペースなどに改修
- これまでに 20 棟近くの古民家を再生
- 改修作業は、ボランティアや学生の参加するワークショップ形式で行うこともある
- 改修費用の一部は、クラウドファンディングや補助金によって賄っている

3. ワークショップ
- 地域住民や学生などが参加できる DIY ワークショップを開催
- これまでに、古民家改修、家具製作、ガーデニングなど様々なワークショップを開催
- ワークショップを通じて、地域住民の交流や空き家に対する理解を深めることを目的としている（関係人口の増加）

4. ゲストハウス（5～6 割が外国人。しまなみ海道のサイクリング目当ての人が多い）
- 外国人観光客向けとしても宿泊施設を運営している。
- 2 棟のゲストハウス（「あなごのねどこ」、「みはらし亭」）を運営している。
- ゲストハウスを通じて、尾道の魅力を海外に発信することを目的の一つとしている。

■ 活動の特徴
- 行政との連携：尾道市と連携し、空き家問題の解決に取り組む
- 民間との連携：地元企業や団体と協力し、地域活性化を推進
- ボランティアの活用：多くのボランティア（昨年登録者149人）の協力を得て活動

■ 課題
- 資金不足：活動に必要な資金をどのように確保していくか
- 人材不足：活動を継続していくためのスタッフ確保
- 空き家の増加：空き家問題の解決に向けた取り組みの必要性

■ 現地視察

左上：北村洋品店（子連れママの井戸端サロン）
右上：旧和泉家別邸（通称：尾道ガウディハウス）
下　：松翠園・大広間（今回の講義で使用）

〔 所感 〕

「尾道空き家再生プロジェクト」は、建築、環境、コミュニティ、観光、アートの 5 つの柱を軸として、空き家再生の活動を展開しており、その象徴が「尾道ガウディハウス」となっている。不便な傾斜地の空き家を再生するために、大学教授、建築家、学生から小学生ほか多くのボランティアと、地域住民たちがこの活動に関わることで、地域活性化や関係人口の増加に結び付いている。また、再生された古民家は、住むだけのものではなく、店舗やゲストハウス、集会所などに利用されており、空き家の有効活用が行われている。この活動を通して、DIY を楽しむ輪が各地にも広がっている。本市においても、増え続けている空き家の有効活用のために、このプロジェクトのような人材が望まれる。

（3） 岡山県　井原市　世界が認めた「美しい星空」の下でのまちづくり推進事業　について

〔 井原市概要 〕 配布資料より

井原市は岡山県の西南部に位置し、西は広島県に接する。小田川流域の平野部に市街地が形成されている。井原市街地を除いては、ほとんどが山々に囲まれた農山村である。2005 年(平成 17 年)の平成の大合併で芳井町、美星町を編入する。歴史的に那須与一と関係があり、大田原市と姉妹都市提携を

結んで交流を続けている。その他に、地場産業の井原デニムや、彫刻家の平櫛田中の出身地として知られている。

人口 37,279 人（2024 年 2 月）　面積 213.51km^2　人口密度 175 人/ km^2

〔 研修内容 〕
3 つの経過を辿って『星空保護区』認定を取得することができた。
【ステップ ①】
美星地区（旧美星町）は、天体観測の分野で古くから認められていたが、1980 年代後半から星を観光資源として生かすように変わっていった。1988 年に環境庁のコンテストの結果、「星空の街・あおぞらの街」に選定された（全国デビュー）。
【ステップ ②】
1988 年 8 月開催のイベントで「光害」が話題となり、条例化に動く。
1989 年 11 月 22 日に「美しい星空を守る美星町光害防止条例」として日本初の公害防止条例を制定する。2005 年井原市編入後も「美しい星空を守る井原市郊外条例」として引き継がれる。
条例目的 ＝『町民の生活に必要な夜間照明を確保しつつ、光害から美しい星空を守ること』
【ステップ ③】
2016 年、「沖縄県西表石垣国立公園が『星空保護区』の認定を目指している情報を入手する。
⇒ 認定制度を取り扱うダークスカイ・インターナショナルに連絡し、意見交換を始める。
⇒ 照明環境改善と住民理解が得られれば可能性があるとのことから、『星空保護区』認定を目指す。
- 美星町観光協会と連携 ・・・自販機・電飾看板の消灯推進、街灯を暖色に変更推進
- 美星町内で講演等による啓発活動
- 認定カテゴリー選定 ・・・ 町や市が単位となっている「ダークスカイ・コミュニティ」を選択
- 屋外の公共照明 ・・・「上方光束ゼロ、色温度 3000K 以下」の照明器具が必要
  - ⇒ パナソニック本社に照明の開発依頼。 2020 年に DarkSky から国内初認証取得
  - ⇒ 美星町観光協会がクラウドファンディングで町内の照明機器を交換（389 基）。
- 井原市の美星町周辺の屋外照明交換（344 基）、岡山県に国道・県道の道路照明交換（7 基）

⇒ 環境が整ったので、2021 年 4 月 28 日認定申請
★ 2021 年 11 月 1 日、美星町が『星空保護区（コミュニティ部門）』に認定（アジア初）。

星空保護区認定後は、国内外の注目度が高まりつつある一方で、まちの活動創出が課題となっており、色々と努力をしているところである（例を下記）。
・日本航空との共創による「星降るレストラン」ツアー商品化

・美星町観光協会 × ＪＲ西日本 × 日本旅行による看板商品化プロジェクト
・倉敷市と福山駅から美星天文台までバス運行する「星空特等席」バスツアー
・ワーケーション事業推進
・ツーリズムＥＸＰＯ出展
・星空 × デニム 商品化

〔 所感 〕

天体観測基地となっていて基礎的な環境があった美星町において、国際的な『星空保護区』の認定を目指してから取得するまでに、５年半の歳月を掛けて、地域地元（美星町観光協会や町民）と行政が協働して、地域の強みである「星空」をブランド化することで、地域の活性化に結びつけようと努力していた。行政はサポート役として、機運醸成のための下地作りや各方面との調整等に努めたとのことだが、新たなことへの挑戦（DarkSky やパナソニックとの交渉など）が、成果へのキー・ポイントになったと思う。本市にも豊富な自然環境があるが、このような体験型の取り組み（美星町の場合、天体観測）について、深掘りして検討する必要があると考える。

以上